

## 報告事項カ

美術企画展示「鳥取ところどころ - モチーフとしての郷土」の開催について

美術企画展示「鳥取ところどころ - モチーフとしての郷土」の開催について、別紙のとおり報告します。

平成22年1月14日

鳥取県教育委員会教育長 中 永 廣 樹

## 美術企画展示「鳥取ところどころ」の開催について

1	<b>展覧会名</b>	鳥取ところどころ モチーフとしての郷土
2	<b>会 期</b>	平成 22 年 1 月 23 日（土）～2 月 21 日（日）
3	<b>会 場</b>	鳥取県立博物館 2 階近代美術展示室
4	<b>主 催</b>	鳥取県立博物館
5	<b>観覧料金</b>	一般 180 円（団体 150 円）
6	<b>概 要</b>	鳥取県立博物館の所蔵作品の中から鳥取県の風景を主題とした名品を選び、江戸時代後期から現代まで、洋画、日本画、写真といった様々なジャンルをとおして繰り返し表現されてきた郷土の風景を紹介する。

### 1 展覧会の趣旨

北は日本海、南は中国山地の山々に囲まれた本県は国立公園の山陰海岸や大山をはじめとする多くの風光明媚な名所で知られている。このような豊かな自然は時代を超えて絵画や写真といった表現のモチーフとされてきた。

今回の展覧会では当博物館のコレクションの中から、県内の風景を主題とした作品を選び、鳥取県という風土が作家の創造にとっていかなるインスピレーションの源泉となったかを検証する。そこに描かれた情景からは今では懐かしい人々の営み、あるいは砂丘や湖沼、海岸や山地といった郷土の自然の姿が浮かび上がり、あらためて鳥取の姿を見直す機会としたい。

展示する作品は江戸時代後期から現代までの日本画、油彩画、水彩画や写真と多岐にわたり、時代による自然観の変遷、あるいは風景に対する作家の解釈の多様さを感じ取ることができる。

### 2 展示構成（予定）

- 1．記録としての鳥取の姿 因伯八景から調査絵図
- 2．風光明媚な景色を求めて
- 3．身近な情景
- 4．資料に残された風景

### 3 出品作家

須田国太郎、伊谷賢蔵、笹鹿彪、尾崎悌之助（洋画）、菅楯彦（日本画）、塩谷定好（写真）、橋本興家（版画）など（約 80 点）

### 4 関連事業

学芸員によるギャラリートーク 平成 22 年 1 月 23 日（土）午後 2 時より